

岩 手 県 金 融 経 済 概 況

1. 概 況

県内の景気は、一部に持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況が続いている。

最終需要の動向をみると、公共投資が前年並みの水準となっているが、住宅投資が低調に推移しているほか、設備投資も製造業を中心に大幅に減少している。また、個人消費は一部に政策効果がみられるものの、全体では弱い状況が続いている。

こうした中、生産は在庫調整の進捗などから緩やかに持ち直しているが、雇用情勢は厳しい状況が続いている。この間、企業の業況感*は、一頃に比べてかなり改善している。

* 短観の業況判断 D.I. (岩手県・全産業、単位：%ポイント)

08/12 月 ▲25 → 09/3 月 ▲46 → 6 月 ▲47 → 9 月 ▲28 → 12 月 (予測) ▲31

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、一部に政策効果がみられるものの、全体では弱い状況が続いている。

(大型小売店売上高)

百貨店の売上高をみると、身回品や雑貨などは低調に推移しているが、8 月下旬から気温が低めに推移したことから、主力の秋物衣料が比較的堅調な滑り出しをみせており、9 月に入り前年比減少幅はやや縮小している。

スーパーでは、衣料品が低価格のプライベートブランドへのシフトが進んでいるうえ、食料品も水産・畜産や米飯類の販売価格が下がっていることから、前年を下回って推移している。

(家電量販店売上高)

家電販売は、エコポイント対象商品である薄型テレビが好調に推移している一方、パソコンや携帯電話などの情報通信機器が前年を下回っているほか、白物家電も伸び悩んでいることから、全体では前年並みの動きとなっている。

(新車登録台数)

9月の新車登録台数は、貨物車が依然前年を割り込んでいるが、乗用車が前年を大きく上回っていることから、全体では前年を1割方上回った。

(観光)

主要観光地の入込みは、昨年発生した地震の反動に加え高速道路 ETC 割引の効果から、前年を大きく上回って推移している。

(2) 公共投資

9月の公共工事請負金額は、ほぼ前年並みの水準となっている。

(3) 住宅投資

8月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲とも前年を割り込んでおり、全体では7ヶ月連続の前年割れ。

(4) 設備投資

2009年度の設備投資計画(9月短観調査結果*)は、設備過剰感や需要の先行き不透明感が依然強いことから、製造業を中心に大幅に減少している。

*09年度計画・前年度比：製造業▲40.8%、非製造業▲5.6%、全産業▲37.0%

3. 生産動向

生産は、在庫調整の進捗やアジア向け輸出の回復などから、緩やかに持ち直している。

(電子部品・デバイス)

電子部品・デバイスは、在庫調整の進捗や海外メーカー向けの需要増加から、減産を緩和している。

(輸送機械)

完成車、自動車部品とも、政策対応を受けた国内外の需要の回復から、減産を緩和している。

(一般機械)

半導体製造装置は、海外からの受注回復を背景に、減産を緩和している。建設機械部品も、海外需要の持ち直しなどから、減産を緩和している。一方、工作機械は、引き続き受注が低迷しており、大幅な減産を継続している。

(その他)

鉄鋼の線材は、自動車メーカーの減産緩和の動きを受けて、減産幅を縮小している。一方、窯業・土石、木材・木製品は、民間工事の減少から減産を継続している。

この間、食料品は、ほぼ横這いで推移しているが、清涼飲料は天候不順から売上が伸び悩んでいるため、生産水準をやや落としている。

4. 雇用・所得の動向

8月の有効求人倍率(季節調整値)は、0.32倍(前月:0.31倍)と小幅ながら、1年7カ月ぶりに前月比改善した。一方、新規求人倍率(同上)は、0.62倍(前月:0.69倍)と前月比悪化した。

この間、雇用者所得は、所定外給与が大幅に減少していることなどから、前年割れが続いている。

5. 企業倒産

9月の企業倒産(負債総額10百万円以上)は、件数が4件(前月8件、前年同月12件)、負債総額が4億1百万円(前月9億69百万円、前年同月21億円)と、前月比、前年比とも減少した。件数、負債総額とも、今年に入って最少。

6. 金融面の動向

預金動向は、前年を上回って推移しているが、雇用・所得環境の悪化を映じて伸び率は鈍化している。

貸出動向は、住宅ローンが頭打ちとなっているものの、地方公共団体向けが増加していることなどから、前年を上回って推移している。この間、貸出金利は、低下している。

以 上

本件に関する問い合わせ先 日本銀行盛岡事務所 TEL : 019-624-3622 (代) http://www3.boj.or.jp/morioka/
--